

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合		
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①自分の学校が好きだと感じている生徒の割合が80%以上である。	定時制高校の特性を生かした個に応じた指導や、生徒同士が交流できる機会を持つことで、学校への所属感や充実感を持たせる。	A	A	A	96%の生徒が「自分の学校が好きだ」と回答しており、ほとんどの生徒が本校に対する所属感や愛着を抱いていることがうかがえる。学習指導においては、個々の学力差に対し、少人数指導の強みを活かして、基礎・基本を定着させるきめ細やかな指導を実践した。また、生徒会行事では役員を中心に生徒が主体的に企画・運営に携わっている。中学時代に諸活動への参加機会に恵まれなかった生徒も、協力し支え合う経験を重ねることで自己有用感を高めることができた。今後は、教育課程の見直しを含め、本校らしい特色をさらに打ち出していけるよう、職員全体で検討を深めていきたい。	学校は定時制高校の特性を生かした特色ある教育活動を行っていると思う。特に少人数での授業は生徒一人ひとりに対応した効果的な実践だと思う。
		②本校のカリキュラムポリシーである「少人数で生徒一人ひとりのニーズに対応する、誰ひとり取り残さない学び」について、生徒や保護者の80%以上が満足している。	少人数ならではの教育活動を実践し、協働学習や主体的・対話的な学びを通して、基礎・基本を確実に定着させられるきめ細やかな指導を実践する。	A	A	A		
		③本校のカリキュラムポリシーである「様々な生徒会行事、部活動などとおしたコミュニケーション力の育成」について、生徒の80%以上が満足している。	生徒が主体となり行事を企画・運営したり、積極的に参加したりすることで互いに認め合い、支え合う良好な人間関係を築けるよう働きかける。	A	A	A		
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	①「授業が分かりやすい」と感じている生徒が80%以上である。	生徒の発達段階や教科の特性に応じ、協働学習等を段階的に導入することで、生徒の主体的な学びを実現する。	A	A	A	中学時代に不登校や特別支援学級に在籍した経験を持つ生徒、発達に特性を持つ生徒が多く在籍している実態を踏まえ、個々のニーズに応じた学習指導を実践した。ICT機器の活用や教材の工夫により学習内容の明確化を図ったほか、長期休業中には学習が遅れがちな生徒への個別支援を実施した。その結果、生徒の89%が「授業が分かりやすい」と回答し、単位未修得者も皆無であった。また、85%の生徒が「授業への積極的な取組」や「学習の成果」に対して高い自己評価をしており、生徒の実態に即した指導が確かな学力の定着につながっているとうかがえる。今後は、人間関係の形成に困難を抱える生徒が多い現状を考慮し、生徒同士が互いに教え合い、支え合えるような学習環境の醸成を目指す。また、基礎学力のさらなる向上を図るとともに、学習の成果が将来の生活やキャリアに直結することを意識付け、学習意欲を継続させる指導の充実が課題である。	学校は生徒の実態に応じた学習指導を行い、生徒は基礎的・基本的な学力を身に付けられていると思う。
		3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	①単位未修得者が、全校生徒の10%以下である。	学習進度が遅れがちな生徒に対して、補習等の学習支援を実施する。	A	A		
	②授業に積極的に参加し、基礎的・基本的な学力を身に付けることができたとして自己評価している生徒が70%以上である。	生徒が積極的に授業に参加できる雰囲気づくりや教材の工夫、またICT機器等の活用により学習内容の定着を図る。	A	A	A			
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	①職員打合せにおいて、生徒に関する情報交換を毎日行っている。	職員間で情報を共有し、情緒不安定や不登校傾向にある生徒への対応に学校全体で取り組む。	A	A	A	全職員による毎日の打ち合わせを通じて生徒情報の共有を徹底し、課題を抱える生徒に対して組織的に対応する体制を構築した。特に支援が必要な生徒については、スクールカウンセラーや行政、医療機関等の外部機関と密に連携し、多角的かつ継続的な支援を実践できた。いじめの防止に関しては、日常的な声掛けを通して悩みや微細な変化の早期把握に努めた。事案が発生した際も、迅速かつ丁寧な聞き取りと指導を行うことで、問題の深刻化を防いでいる。いじめの解消については、事案発生後の経過観察を継続しており、再発防止に向けた粘り強い事後指導と見守りを徹底している。アンケート調査の結果からも、過去の事案を含め、多くの生徒が落ち着いた状況にあることが確認された。学校生活の安定については、職員と生徒が共に行う清掃活動を通じた環境整備のほか、不登校経験を持つ生徒への重点的なフォローを実施した。その結果、中学時代に不登校経験を持つ生徒の多くが、入学後は安定して登校できている。欠席が目立ち始めた生徒に対しても、早期に家庭連絡を行い、カウンセリングへ繋げるなどの対応により、長期欠席の未然防止に努めた。いじめ等のトラブルの背景には、生徒の発達の特性が関係しているケースも少なくない。今後も生徒個々の精神的な成長を注視し、日常的なフォローを継続するとともに、トラブルを未然に防ぐための集団づくりを推進することが課題である。	学校全体で清掃活動に取り組むことで学習環境を整え、落ち着いた学校を送っていると思う。学校は生徒の悩みや変化を早期に把握し、いじめの防止や早期発見に向けて取り組んでいると思う。
		②清掃活動に積極的に取り組み、生徒全員が清掃に参加している。	全生徒と全職員が毎日一緒に清掃に取り組み、環境美化に努める。特に熱心に取り組んだ生徒を年度末に表彰する。	A	A	A		
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	①「学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っている」と感じる生徒・保護者の割合が80%以上である。	日常的な声掛け指導を通して、いじめ等に係わる悩みがないかを把握し、早期対応ができるよう取り組む。	A	A	A		
		②いじめの解消率が100%である。	アンケート調査を各学期に1回実施し、情報を共有するとともに、個人面談を充実させる。	B	A	B		
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	①中学時は不登校だったが、高校入学後に改善され、登校できるようになった生徒が80%以上である。	日常的な教育相談等を通して、生徒への適切な対応を行うとともに、継続的に支援する。	A	A	A		
		②欠席率が15%以下である。	中学校時に不登校だった生徒が多くいるが、それを踏まえて家庭との連絡を密に取りながら生徒の出席を支援する。	B	A	B		
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	①「学校は進路について生徒とともに考えることができている」と答える生徒の割合が80%以上である。	①生徒の進路希望に沿った企業・上級学校の情報を随時提供し、二者面談などを行い生徒とともに考える。	A	A	A	96%の生徒が「学校は進路について自分たちと一緒に考えている」と回答しており、教員との信頼関係に基づいた支援体制への評価は高い。一方で、「自分の進路について自ら考えたり調べたりしている」生徒は61%に留まっている。本校の特性上、現在は「安定して登校を継続すること」が第一の目標となっている段階の生徒も少なくない。そのため、将来を見据えた具体的な行動に移るための心理的な余裕や意識の醸成が今後の課題として浮き彫りになった。低学年次から将来のキャリアをイメージできるよう、進路ガイダンスや外部講師による講演会等の機会を計画的に設定する。登校の安定を基盤としつつ、生徒が自分事として進路を捉え、自ら情報収集や準備に取り組めるような「主体性を引き出す指導」の充実を図ってきたい。	学校は生徒が主体的に進路選択できるよう支援体制を整えていると思う。生徒が自分自身の進路実現に向けて前向きに努力できるよう、支援を続けて欲しい。
		8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	①「自分の将来について考え、将来の職業について調べることができている」と答える生徒の割合が70%以上である。	①アンケートや進路ガイダンスなどを行い、生徒の進路について、生徒と保護者等が共通の目標を持てるように支援する。	A	C		
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	①定時制課程の教育活動を理解してもらうために「学校見学」を随時受け入れる。	①11月以降、学校説明会を兼ねた「学校見学」を随時受け入れる。1人あたり30～60分程度の時間を使い、丁寧に説明をする。	A	A	A	本校への入学を検討している中学生や保護者を対象に、11月以降、個別の学校見学・説明会を随時受け入れた。実際の授業風景や施設を公開することで、本校の教育活動への理解を深める機会となった。当初は不安な表情を見せていた参加者が、対話や見学を通じて安心感を得て、晴れ晴れとした表情で帰路につく様子が見られるなど、丁寧な個別対応が受検への心理的な障壁を低減させる成果につながった。Webページの更新については、さらに頻度を高める余地がある。次年度は、発信内容の多様化を図り、よりタイムリーかつ親しみやすい情報発信を継続的に行うことが課題である。	学校は定時制Webページに生徒の活動の様子や学校案内等を掲載し情報発信をしているが、頻度や発信量が少ないので、学校をアピールするためにも情報量を増やし、更新頻度を高められると良い。
		②定時制Webページの更新を月に3回以上行う。	②生徒の日々の活動の様子を記録し、開かれた学校づくりのために魅力的なWebページの更新を行う。	B	A	B		
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	①「学校はPCやオンラインの動画などを使って分かりやすい授業を取り入れている」と感じている生徒の割合が70%以上である。	①ChromebookやBYODを活用した授業を積極的に実施するとともに、生徒にとってわかりやすい授業のために教材を工夫する。	B	A	B	学習指導においては、ICT機器を活用した視覚的で分かりやすい授業の実践に努めており、生徒の77%がその効果を実感している。一方で、生徒自身がChromebookやBYODを操作して学習する機会は限られている。業務改善の面では、校務支援システム「Kinako」の積極的な活用により、校務の効率化が大きく進んだ。また、各種アンケートにGoogle Formsを導入することで、集計・分析業務の時間が大幅に短縮され、デジタル化による事務負担の軽減を実現できた。教職員・生徒双方のICT活用能力を向上させることで、さらなる授業の質の改善と業務の効率化を推進していきたい。	学校はICTを活用した授業改善や業務改善を推進できていると思う。
		11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	①アンケートフォームや会議資料のデジタル化を進めるとともに、kinakoの運用を積極的に行う。	①業務改善の一環として、kinakoを積極的に活用する。また、学校で実施するアンケートはGoogle Formsを用い、配布から集計までを効率化する。	A	A		